

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成30年 2月20日 提出

1. 視察概要

会派名	大志会
視察者名	富田文志、関武徳、山村康治、佐藤仁一
日時	平成29年11月21日
視察先	岐阜県農政部
出席者	岐阜県農政部里川振興課 赤地昭弘課長、農政課 岩本英司政策係長

2. 視察内容

視察項目	「清流長良川の鮎」世界農業遺産認定に向けた取組み経過と認定後の取組みについて
視察内容	<p>○「清流長良川の鮎」が平成27年12月15日に世界農業遺産に認定された。大崎地域も世界農業遺産認定を目指していることから、認定に向けた取組み経過と認定後の取組みについて岐阜県の担当者から説明を受ける。</p> <p>(1)世界農業遺産認定に向けた取組み経過について、岩本係長より説明を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月18日～19日 国連大学による現地調査 ・平成26年3月13日「清流の国ぎふ世界農業遺産登録準備会」を設置 ・7月24日 清流長良川の農林水産業推進協議会設立 ・7月28日 農水省へ申請書提出 ・8月29日 世界農業遺産シンポジウム開催 ・9月30日～10月1日 国専門家会議による現地調査 ・10月31日 農水省による認定申請の承認 ・平成27年1月9日 FAOへ認定申請書提出(英語版) ・5月25日～26日 FAOによる現地調査 ・6月25日 石川県・岐阜県知事懇談会 里山、里海、里川を一体としたコンセプトで、農林水産業、観光業、伝統文化の継承など幅広く連携して取り組むことを合意 ・8月29日 世界農業遺産国際シンポジウム開催 ・12月15日 清流長良川の鮎 世界農業遺産認定成る <p>(2)世界農業遺産認定後の取組みについて、赤地課長より説明を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進体制として、世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会設立 《構成員》・岐阜県・岐阜市・関市・美濃市・郡上市・長良川漁業対策協議会・岐阜県農業協同組合中央会・岐阜県森林組合連合会・一般社団法人岐阜県観光連盟・岐阜県商工会議所連合会で県が中心的役割 ・連携 協力団体、世界農業遺産「清流長良川の鮎」プレイヤーズ。62団体 ・「清流長良川の鮎」ロゴマークの制定 ・「清流長良川の恵みの逸品」の認定、郡上鮎など106品 ・「岐阜県魚苗センター」の拡充、平成30年竣工予定 ・「清流長良川あゆパーク」の新設 ・漁協による植樹活動と稚鮎の放流 ・魚付き保安林の指定 ・「GIAHS 鮎の日」の制定、7月第4日曜日 ・「あゆ王国ぎふ会議」の開催、(あゆ王国ぎふを語る会、鮎の創作料理、利き鮎会) ・民間団体によるPR活動(ラッピングバス運行、鮎菓子たべよ一博の開催) ・体感ツアーの実施(年11回) ・岐阜県「世界に誇る遺産連合」の取組み(岐阜県内に7つの世界遺産) ・海外トップセールスでのプロモーション(ベトナムゲストハウス、タイ日本大使館) ・石川県と連携したシンポジウム開催

- ・遺産の保全、継承を担う人材育成
- ・世界農業遺産広域連携推進会議の取組み(国内の認定地域 8 県)
- ・「内水面漁業研修センター」の開設(平成 28 年 7 月)
- ・東南アジア漁業開発センターとの協力(教育及び技術協力に係る覚書締結)
- ・海外からの研修生受け入れ(H28、研修 22 名、視察 26 名、H29 研修 39 名)
- ・専門研究員を派遣した技術指導(タイ国ヘニジマス養殖技術)

以上視察報告としますが、大崎地域の「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」が世界農業遺産に認定されたことで、今後フィールドミュージアム構想の実現に向け、官民一体となった取り組みが肝要と思われる。

他会派との
合同実施

無 有 (会派名:)

以上

会派名	大志会
議員名	富田文志・関 武徳・山村康治・佐藤仁一
日時	平成29年11月22日 午前9時30分～午前11時
視察先	岐阜市立中央図書館

視察先 岐阜市立 中央図書館「ぎふメディアコスモス」

調査事項

①図書館利用の現状と利用者拡大への取り組み状況について

- ・利用状況について（平成28年度実績 中央図書館）

入館者数：1,038,910人

貸出人数：404,101人

貸出数：1,504,716点（アウトリーチ含む）

- ・開館時の来館者目標数が100万人であるが、開館以降100万人超の来館者が継続している。また、現段階においても、来館者数の衰えはみられない。
- ・当館は、「ここにいることが気持ちいい」「ずっとここにいたくなる」「何度でも来てみたくなる」をコンセプトにすべての世代に居心地のいい「滞在型図書館」として運営しているが、来館者に占める子ども、子育て世代である40歳以下の来館者の割合が6割と旧館に比べ大幅に増加している（旧館は約3割）。
- ・次世代型、滞在型図書館として開館後、年100万人以上の来館者となっているが、来館者数を維持していくにはハード面の充実のみならず、利用者が主体的に図書館にかかわりたくなる様なソフト面（魅力あるイベントや館内展示など）両面の充実に取り組んでいる。

②図書館活用による市民活動の現状と、新たな市民活動を引き出す企画等の考え方について

「まち」そして「ひと」がつながる図書館への挑戦＝「ぎふまちライブラリー」の展開

- ・図書館周辺の店舗や寺院に展開する個人所有の本を紹介する私設図書館。
現在、店舗7店、寺院1社。中央図書館内に、設置者のためのPRスペースを用意。
- ・新たに「ぎふまちライブラリアン養成講座」を実施。まちライブラリーの拡大を図り、さらなる市民協働のまちづくりに参画。

「ぎふライブラリークラブ」

- ・図書館を中心に「本」をツールとして「ほん・ひと・まち」をつなぎ、広げる活動を行う市民グループ。中央図書館と連携し、「並木道読書会」「BOOK BOOK 交歓会」「世界に開く窓」等を開催。「本」を通じた「人」の結びつきが広がりを見せている。

「めざせ直木賞作家！ぼくのわたしのショートショート発表会」

- ・中学、高校生世代の子どもたちによる自作短編（ショートショート）の自身の朗読による発表会。若者に人気のある直木賞作家「朝井リョウ」氏がその場で直接コメント。
- ・若い世代の小説を書くことへの関心や、読書意欲、図書館への関心を喚起し、岐阜市の中学・高校生世代から将来、直木賞や芥川賞、ノーベル文学賞等の受賞者を生み出す契機としている。

※今後も、図書館機能の充実と魅力的な企画を利用者に提案することで、これまでの来館者数の維持を図り、さらには、市民協働のまちづくりの一翼を担うことで、住民参加型の図書館運営を継続していくことが必要。

③図書館の運営及び「ぎふメディアコスモス」の企画等の職員体制について

- ・職員数：75名（うち司書55名）
- ・蔵書数：462,356冊※雑誌、視聴覚資料、紙芝居含む
- ・蔵書数の変化：平成28年度と平成27年度を比較し、27,619冊の増
※年間2～3万冊の増加で、開館後、10年間で70万冊程度の蔵書数とする予定
- ・予算：中央図書館分 4億9千万円
※うち、図書整備（図書購入、データベース使用料）が約1億2千万円

会派視察報告書

会派名	大志会
議員名	富田文志・関 武徳・山村康治・佐藤仁一
日時	平成29年11月22日 午後1時30分～午後3時30分
視察先	愛知県一宮市本町商店街

視察先 愛知県一宮市 本町商店街

一宮市は、繊維の町として古くから栄え、明治以降は、工業化された毛織物工業の中心地として、全国から取引業者が行き交う、経済活動が活発な街として繁栄してきた。

しかし、近年は、生産、流通の変化で人通りが激減し、中心商店街の衰退が課題となっている。こうした中で、商店会を中心ににぎわい再生への取り組みが展開されている。

調査事項

①本町商店街まちづくり事業及び、にぎわいまちづくり事業の取組み成果について

☆「杜の宮市」の開催。一宮の歴史的特徴を活かし、伝統工芸や技術、現代の市民力を引き出し、街の魅力を内外に発信する。

毎年5月第1日曜日に開催。今年で17回目となる。街の象徴真清田神社境内を起点に連なる本町商店街を5つのブースに区切り、モノづくりや、市民の創作小物製品、地元素材を使ったフードコーナー、市民活動等、380以上のブースが1kmの商店街に立ち並び、市内外から人々が集い、大変にぎわっている。街への誇りと情報発信、経済効果をもたらしている。

運営企画は、地元市内・外の老若男女のボランティアで構成している。

☆おりもの感謝祭・「七夕まつり」 毎年7月下旬4日間開催。60年以上続く豪華絢爛な飾りつけで、日本3大七夕に数えられる。100万人以上の人出がある。

☆この他、5月に「本町鯉のぼりフェスティバル」や10月には、「おいち祭り」を開催し、1年を通じた活性化へつなげている。

②本庁商店街構成会員の現状と活動状況

☆高齢化による商店街の存続は厳しさがある。しかし、イベントや、外部からのアイデア、人材の導入を図りながら、空き店舗の防止、新たな店舗づくりへセミナー等を開催し、商店街の維持・展開を図っている。

③今後のまちづくりと集客戦略の考えについて

☆まちの特性を最大限に活かす取り組みをしている。

一宮モーニングプロジェクト事業…モーニング（喫茶店）発祥の地

市内喫茶店 571 店、年間喫茶代支出金額全国トップクラスを受け、

地域団体商標への登録取得（地域ブランド商標権）付加価値化

☆ほんまちボックスショップ「オレンジ」

縦・奥行 40 cm、横 55 cm のボックス 48 ボックス設置、月 3,000 円の負担

使用に際しては、手作り感覚商品や作品展示として活用

☆ほんまちサンプラザ（新たな集まりの場）

起業家育成・支援、チャレンジショップ、コミュニティーカルチャー等

会派行政視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書

平成30年2月20日 提出

1. 視察概要

会派名	大志会
議員名	富田文司・関 武徳・山村康治・佐藤仁一
日時	平成29年11月22日16:30～21:00と11月23日08:30～10:00
視察先	株式会社三州足助公社百年草・足助町並み・三州屋敷・香嵐溪ライトアップ、
出席者 (説明者)	株式会社三州足助公社百年草支配人 豊田市足助観光協会担当者

2. 視察内容

視察項目	1、観光資源の滞留時間演出について 2、福祉施設の多様な活用調査 3、高齢者創造事業の調査
視察内容	1、香嵐溪のライトアップ概要
【質疑応答】	<p>豊田市足助町は、豊田市の東部に位置し香嵐溪の紅葉が有名である。古来、三州街道(塩の道)の足助宿として栄えた、奥三河の中樞拠点である。町並みは、平成23年6月20日に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。</p> <p>香嵐溪もみじは、香積寺十一世の三栄和尚が、寛永11年(1634年)植えたのが始まりといわれている。三栄和尚は、美しい自然を、より美しくとの願いを込めて、巴川ぞいの参道から香積寺境内にかけて、楓・杉などを、般若心経一巻を誦すごとに、一本一本植えていったといわれています。また、飯盛山中にあるもみじは、大正のおわりから昭和のはじめにかけて、森林公園をつくるために、青年団・婦人会などの奉仕作業で植えられました。</p> <p>足助地域は良い観光地で、特に秋は人出が多く、ピーク時には月150万人にもなる。現在、香嵐溪には四千本のもみじや11種類の楓があるといわれており、黄や紅に染まる様は圧巻です。また、11月初旬からの約一か月間は、夜間のライトアップも行われています。時間は日没から午後9時まで。昼間とは違った幻想的な雰囲気を楽しめます。受入キャパの拡大と日中の主要道路の渋滞解消を図ることを目的として、ライトアップの実施と滞留時間の演出により地域経済の活性につながっている。</p>

2、福祉施設の多様な活用

福祉施設「百年草」は「株式会社三州足助公社」の事業のひとつで、ホテル、フレンチレストラン、足助ハムのZiZi工房、ベーカリーのパーバラはうす、日帰り入浴などの機能の他、社会福祉協議会による介護デイサービス施設も兼ね備えた福祉と観光をミックスさせた新しい形の施設です。事業として活動を開始してから20年を超えている。

百年草の収益は11月を中心とした秋に年間売上の半分に達する。このため従業員は病院に行く暇もないと言われるほど忙しくなる。この他、この偏りは様々な経営上の問題を醸し出している。

経営上の課題としては、施設の老朽化と近年の観光客の減少への対応がある。また、高速道路が出来たことで宿泊客が減少している。

現在の百年草事業は、公社と市との指定管理業務の受託契約は5年となっており、5年ごとの入札により運営に関わる業者が決められる仕組みとなったため、豊田市の経営方針の枠を出ることは出来なく、5年を超える展望を持つことは難しくなっている。

3、高齢者創造事業の取り組み

●パンの製造販売(パーバラはうす)では3名のパン職人である正社員(いずれも非高齢者)が製品の企画と品質確保をおこない、ハムソーセージの製造販売(ZiZi工房)では40歳くらいの工房長が作業指揮をおこなっている。パート従業員(ほとんどが高齢者)はこれらの正社員の元で分担作業もしくは補助的作業についている。パート従業員の総数はおよそ40人であり、7割程度が70歳代である。スタッフの補充は、以前はシルバー人材センターからの派遣であったが職場の中で誰かの指揮下に入って作業させてはいけないことになったため、現在は、パンやハムの製造に関わる従業員については技術習得に3~4年かかるため、直接雇用している。採用時年齢は62~63歳までとしている。

考 察

【所感・課題 ・提言等】

①香嵐溪ライトアップの訪問時は、雨降りの中にもかかわらず、公共駐車場・民間の駐車場満車状態であり、川の両岸の店舗街や三州屋敷までの屋台全て満杯状態でありました。ライトアップによる効果で、日中は観光バス等のグループ旅行者などが中心となり、夕方からは若い人からファミリーなどが多く、上手くすみわけが出来ていると感じられた。

このことにより、交通上の問題解消、旅行プランの多企画提案など広がりを持つ効果がみられる。

②「ZiZi 工房・パーバラはうす」ともに、自店舗販売よりは豊田市や足助などの中心街店舗などでの外部販売に力を入れている。高齢者と若手の雇用バランス

	<p>スが良く、百年草レストランでの食用も功を奏して技術的にも安定している。</p> <p>③百年草事業は、公社と市との指定管理業務の受託契約は5年となっており、今後の指定管理の期間をはじめ、公設民営の在り方など長期展望に立った自立できる運営体の経営方針を確立する時期に来ている。</p>
添付資料	・無 ・有 (別紙)
他会派との 合同実施	・無 ・有 (会派名:)
記録議員	さとう仁一

会派行政視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書

平成30年2月20日 提出

1. 視察概要

会派名	大志会
議員名	富田文司・関 武徳・山村康治・佐藤仁一
日時	平成29年11月23日10:45～13:00
視察先	大府市 あぐりタウンげんきの郷
出席者	JAあいち知多げんきの郷支配人兼総務課長
(説明者)	JAあいち知多げんきの郷総務課木村担当

2. 視察内容

視察項目	1、都市近郊における農業振興について 2、農産物直売所を中心にしたテーマパーク運営について
視察内容	1、都市近郊における農業振興について 愛知県大府市にある『あぐりタウンげんきの郷』は、知多半島の農畜産物を中心に直売施設などをはじめ「農」と「食」テーマに設けて、JAあいち知多が経営している。地域農業のげんきを目指す「げんきの郷」は、開業11周年を迎えている。美味しい、楽しい、あたたかい21世紀の「農」と「食」の理想形がここにあり、健康な心と体に必要なものが「げんきの郷」には揃っている。げんきの郷の直売施設に出荷する生産者の車には、こんなステッカーが貼ってあります。「野菜つくってます」「お花つくってます」「卵つくってます」「果物つくってます」「お米つくってます」これは、消費者に対する責任と自負心を発信している。また、げんきの郷の地場産品を積極的に購入・活用する飲食店には、「げんきの郷の野菜つかってます」認定店として認定証書とステッカーを発行している。
【質疑応答】	2、農産物直売所を中心にしたテーマパーク運営について JAあぐりタウンげんきの郷は、日本で最大級の産地直売所でJAあいち知多が運営しています。新鮮な野菜が手に入るだけでなく、その地域ならではの当地グルメなどを楽しむことができ、年間でなんと200万人も訪れる愛知県の一大観光スポットです。ここにはさまざまな見所、お楽しみがあり、中でも一番の魅力は、地元の新鮮な野菜が大集結するファーマーズマーケット「はなまる市」。地元農家の方々が土作りからこだわった数多くの新鮮な野菜が販売して

いる。また、野菜だけではなく地元酪農農家で作られた乳製品、あいち知多半牛、あいポーク、名古屋コーチンといったこの地方ならではの新鮮なお肉を買うこともでき、スーパー代わりに立ち寄って新鮮な食材を購入する人も多い。産地ならではの食材や知多半島の海の幸が楽しみたい人には、豪快な知多半島近海の海の幸の丼飯や軽食が「げんき横丁」で屋台感覚で堪能することができる。また、パン・惣菜の「できたて工房」では新鮮な地元野菜が使用された惣菜パンや、知多半島のお米を使った米粉パンなど、焼きたてのパンがその場で味わえ、さらに、より地元野菜を堪能したい人には惣菜コーナーがオススメで知多半島の新鮮野菜を地域伝統の味付けで手作りされており、量り売りで必要量を買って求めることもできる。

こうした軽食や惣菜に加え、落ち着いた場所で地元食材を楽しみたい人には、和食レストラン「だんらん亭」があり、モーニングやランチ、団体での利用も可能です。このようにJA あぐりタウンげんきの郷のもう一つの見所が、温泉や足湯が完備してある点が挙げられる。温泉の「めぐみの湯」はなんと地下1500メートルから湧き上がる天然の温泉。大浴場や露天風呂があるだけではなく、知多半島の名物、常滑市の常滑焼による陶器の浴槽で入ることも魅力のひとつ。また、温泉旅館のように貸切風呂も用意しており、さらにはマッサージやカットサロン、喫茶なども完備しておりゆったり過ごせる。温泉とは別に手軽に天然湯を楽しみたい人には足湯「ちゃぷーん」がオススメで、最大で60名も入れる足湯でゆっくりすることもできる。

他にも、ファミリーで楽しむために子供専用の屋外ガーデンスペースや、室内キッズスペースも完備。子供連れにも安心して家族を楽しませる大道芸なども行われていました。また、ここではテーマの一つである「農」に関する体験も充実。体験農園では野菜の収穫が体験できたり、地元食材を使った調理実習までできるなど、家族・仲間や学校単位での体験教室も行っている。

考 察
【所感・課題
・提言等】

①JAあいち知多は愛知県の知多半島にある農業協同組合。JAがこんなにも大規模なマーケットを運営・経営にあたっていることは珍しく、職員・各分野のスタッフ・テナント間、共に基本理念の共有感があり、生産者組織の育成、職員・スタッフの研修など努力は並々ならぬものを感じる。「あぐりタウンげんきの郷」では、テーマである「農」と「食」、「健康」をたっぷりと堪能できる、滞留と回遊性を併せ持つ機能と設備、販売促進企画が十分検討されている。安全対策なども含めて総合的に学ぶところが多い。JAあぐりタウンげんきの郷へは自動車でのアクセスも良く、知多半島の農畜産業と都市生活の出会いの場として、市民生活への地域経済の見える化の発信拠点として最適である。

添付資料	・無 ・有 (別紙)
他会派との 合同実施	・無 ・有 (会派名:)
記録議員	さとう仁一